

宰府造営奉行

木全藤兵衛

宰府造営奉行とは、福岡藩の郡奉行の支配に属し、天満宮の祭礼や造営普請、幕府役人や藩主の参詣の応接など、天満宮や太宰府地域に関する様々な職務を務めた役職でした。木全藤兵衛は、文化10年（1813年）6月、翌年2月までの8カ月、宰府造営奉行を務めました。木全は6月9日に任命されると、7月5日には一家で宰府の役宅（職場兼住居）へと引っ越してきます。当日は地域の庄屋や職人が観世音寺村まで出迎えに來たとされています。木全の在職中の主な出来事についてみてみましょう。

一つ目は天満宮の8月御祭礼です（現在の神幸式大祭）。当時の天満宮においても年間を通じて多くの神事が行われていました。これらの神事に対する造営奉行の役割は決められており、御祭礼では「御幸御供に手付兩人共に行列」

するとされ、神幸の行列のお供をすることとなっていました。文化10年の御祭礼は8月22～25日にかけて行われ、木全は18日に社家、村役人たちとともに榎寺までの道の見分を行いました。22日は八ツ時（午前2時頃）過ぎに正装で出発し、鳥居の前で神輿の到着を待ち、七ツ時（午前4時頃）に行列に加わり、五条橋までお供をして引き取りました。翌日も早朝よりお供に加わり、24日は夜五ツ時（午後8時頃）延寿王院前に着座し、神

太宰府人物志

資料室だより④2

輿が三ノ橋にさしかかり、神馬が鳥居脇に來るころに行列に加わり神前に参りました。25日には藩主御代参の使者の応接を行って、御祭礼における造営奉行の職務を終えたのでした。

二つ目は、幕府役人の参詣の応接です。木全の在職中、9月に4件、10月に3件、11月に1件の参詣の記録が残されています。なかでも9月26日には、長崎奉行の遠山景普（人物志34を参照）が江戸へ帰る途中に参詣しており、木全はその対応を行っています。18日に郡奉行より木全へ書状で知らせが到來しており、24日には応接の詳細についての書付が届きました。木全はこのことを宰府の隣の宿である二日市にも送って応接に備えました。参詣の当日は宿から延寿王院前までを造営奉行の部下が、延寿王院前からは天満宮の社家である上座坊が案内をして、遠山の参詣が行われました。また、大町にあった宿屋の大野屋十三郎に御進物の品を持ち出させています。

木全は部下や村役人など多くの人びととともに様々な職務をこなし、江戸時代の天満宮や太宰府地域を管轄していたのでした。なお、木全や木全を巡る人びとの活動の詳細については、『太宰府市史通史編II』に紹介されています。

市史資料室 矢野健太郎